

「カンタン英語で学ぶブッダの教え」終了報告

2020年2月16日(日)実施

JGA 第一支部運営委員会

立春を過ぎた小雨模様の2月16日(日)13:30~16:30 港区勤労福祉会館で「カンタン英語で学ぶブッダの教え」研修が実施されました。参加者は会員29名、非会員4名、委員2名、合計35名でした。講師には昨年に引き続き浄土真宗本願寺派の住職であり、著述家、翻訳家でもある大來尚順師をお迎えしました。日本で龍谷大学をご卒業後、米国で仏教を学ばれハーバード大学研究員を経て帰国され日本と海外の違いをよく理解された方です。

講義ではまず仏教は宗教かどうかという質問から始まり、キリスト教と仏教の違いは、キリスト教は神と一緒にすることのない二元性のもの dualism であり、仏教では人は仏になれる一元性のもの non-dualism であると、教えていただきました。

仏教はかつては仏道と言われ仏になる教えで、仏 = Buddha つまり覚者(真理に目覚めた人)になるということつまり悟りを得ること。それは親指と中指で指をパッチと鳴ってひらめくような感覚というお坊さんもらっしやるそうです。お釈迦様のおっしゃった悟った真理には4つあり、それは四聖諦(ししょうたい)といい「Four Noble Truth」と英訳されます。それらは苦諦、集諦、滅諦、道諦で、つまりこの世には「苦」(不満の心)が存在して、その「苦」には根源があり、その「苦」を滅する(停止させる)ことが悟りです。その「苦」を滅して悟りへと導く道がある。その道は一つで八つの側面をもっています。それが八正道(はっしょうどう)「Eightfold Noble Path」である。



先生のお話では煩惱とは、「どこまで行っても自分を中心にして計算してしまう心」であり、八正道によって乗り越えなければならないのが三毒という。三毒とは貪、瞋、癡、で、それぞれ Greed, Anger, Stupidity である。先生のお話はまだまだ続きました。最後に皆様からの質問が活発に出ました。

どこか観光地に行ったときに、書いてある看板の解説が分からない時、英文の説明を読みます。そうすると意外と内容が分かることがあります。今回の研修では難しい仏教のいろいろな解説が英語に訳されることで、ずっと心に入ってきて理解できたように感じました。いただいた資料はガイドをする上で実践的に役に立つものでした。参加の皆様

のガイディングにますます磨きがかかりますように。

